



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2637 号 2015.9.17 発行

社説：消費税負担緩和 インボイス導入から逃げるな 読売新聞 2015年09月16日

財務省が示した消費税率10%時の負担緩和案に対する批判が、一段と強まっている。

15日の与党税制協議会では、公明党から「我々が訴えてきた軽減税率とは違う」「消費者の負担が大きい」などの異論が相次いだ。

このため協議会は、負担緩和策について、本来の軽減税率の導入を軸に、財務省案などと並行して検討していくことになった。

財務省案は、全品目に税率10%を課した上で、酒類を除く飲食料品の税率2%相当額を後日、消費者に給付する。1人年5000円程度の上限を設ける方向だ。

財務省は「日本型軽減税率」と称しているが、お金を広く薄く配る給付金制度にほかならない。痛税感を和らげる効果に乏しく、国民に多大な不便を強いる。

与党は、軽減税率導入に絞って具体策を詰めるべきだ。

財務省案では、消費者は買い物の際にマイナンバー（共通番号）カードを持ち歩かねばならない。紛失や盗難のリスクは大きい。

カードの製造が追いつかず、消費税率10%が予定される2017年4月までに、全国民に行き渡らない可能性も高いという。カード不足で給付が行えない状況での見切り発車は許されまい。

自党内には、軽減税率の導入に関し、中小企業などの事務負担が重くなるとの反対論がある。

取引ごとに税額を記入するインボイス（税額票）の作成が必要になるためだ。

ただ、インボイスは簡略化しようと思えば、請求書に税率や税額などを書き加える程度で済み、さほど負担が増えるわけではないと指摘する専門家も少なくない。

軽減税率を導入している欧州各国のほか、アジアにも韓国やタイなどインボイスを採用する国がある。日本だけ作成が難しい事情があるとは思えない。

全国の食品店にカードの読み取り機を設ける財務省案は、インボイス方式より手間も費用もかかるのではないか。企業の負担を軽くするため、顧客の国民に面倒を押しつけるのは筋が通るまい。

先進国最悪の財政事情を抱える日本ではいずれ、消費税率の10%超も視野に入ってくる。

財務省案では、税率を上げる度に、いったん支払う消費税の痛税感が大きくなる。給付額は膨らみ、受給の回数や手間も増そう。

食料品や新聞など必需品の消費に支障が出ないよう、税率が低いうちに、軽減税率の枠組みを整えておくべきだ。

社説：ひとり親支援 貧困の連鎖断ち切りたい 西日本新聞 2015年09月16日

明るい声が響く教室で、貧困に耐える子どもたちがいる。あなたの地域の学校も例外ではない。

厚生労働省によると、平均的な所得の半分を下回る世帯で暮らす子ども（18歳未満）は6人に1人に上る。ひとり親世帯（約146万世帯）では実に2人に1人という高い割合だ。

貧困の要因はさまざまだが、少なくとも子どもに責任はない。なのに、心に深い傷を負うばかりか、十分な教育を受けられず、大人になっても貧困から抜け出せないケースが少なくない。

理不尽な現実ではないか。

政府がひとり親世帯の自立支援に乗り出す。評価できる面もあるが、「貧困の連鎖」を断ち切るにはより手厚いサポートが必要だ。

支援策の柱は、放課後児童クラブ終了後の子どもの居場所づくりだ。2019年度までに、学習支援や食事を提供する地域の居場所を年間延べ50万人分整備する。

さらに、大学生や元教員による原則無料の学習支援塾を5千の中学校区で開き、大学生の無利子奨学金も充実させるという。

働く親の帰宅が遅く、家で孤独をかみしめる子どもは少なくない。夜中に街を出歩いたり、コンビニでたむろしたりして、生活のリズムを乱す危険もある。

食事と笑顔で迎える居場所は大切だ。着実に整備してほしい。

多くのひとり親が児童扶養手当の増額を求めている。検討の余地があるのではないか。

例えば、高所得世帯に「当分の間」として月5千円を支給している児童手当特例給付を廃止して、財源に充ててはどうか。所得を勘案した上で、奨学金の無償化や給食費の免除も検討課題だろう。

とりわけ深刻なのは非正規雇用のシングルマザーだ。より賃金が高い職にキャリアアップするための有効な就業支援はないか。厚労省は知恵を絞ってほしい。

貧困はもはや家庭の枠を超えた社会問題だ。貧困世帯の子どもに学習支援を行う民間団体が各地で活動している。地域で貧困世帯を支える機運を盛り上げたい。

## 大人のADHD 治療現場は手探り 注意欠如・多動性障害 大人にも

中日新聞 2015年9月15日

不注意なミスが多い、じっとしてられない、衝動のコントロールが難しい。こんな特徴がある注意欠如・多動性障害（ADHD）。これまでは、子どもに多い発達障害の一つで、成長とともに改善に向かうと考えられていたが、最近は大人のADHDが注目されている。治療薬の成人への処方が可能になるなど、医療的な対応も始まっているが、まだまだ手探り状態だ。（編集委員・安藤明夫）

会社員のAさん（38）は、成績のいい営業マンだったが、課長に昇進してから、緊張が強くなった。課の仕事全体を把握し、部長に進行状況や正確な数字を報告するなど、苦手な仕事が増えたためだ。数字が合わない箇所を指摘され、理由を問われてもうまく説明できない。眠れなくなり、不安感が高まり、精神科を受診した。

医師は、Aさんから幼少期に小さなけがを繰り返していたことや、ちょっとしたことでカッとしやすいことなどを聞き出し、自己記入式のチェックリストなどをもとにADHDと診断。薬物治療と並行して、自身の問題を自覚するために行動を振り返る認知行動療法を取り入れた。その結果、半年ほどで仕事のミスが減り、不安や焦りも消えた。

この事例は、東京慈恵医大精神科の小野和哉准教授が先月、東京でのセミナーで紹介した。

小野さんが強調したのは、丁寧な診断の大切さ。成人のADHDは複雑で、どこまでが個性で、どこからが障害か分かりにくいというえ、社会性やコミュニケーション能力などの困難を抱える自閉スペクトラム障害（ASD）を合併している例も多い。子ども時代から生きにくさを体験する中で、二次障害としてうつ病やパニック障害などを発症していることもしばしばある。

個々に違う症状を把握しながら、社会への適応力を高めていくことが治療の目的だ。ADHDの症状を和らげる2種類の薬が、数年前から成人にも処方できるようになったが「カウンセリング、認知行動療法、家族教育などの心理社会的な取り組みを並行して行うのが望ましい。医療者側の経験もまだ乏しく、適切に対応できる医療機関はわずか」と小野さんは指摘する。

愛知県心身障害者コロニー中央病院（愛知県春日井市）の児童精神科医・吉川徹さんは、ADHDの子どもや青年を多く診察している。

成長に伴って自然に回復していく例もあるが、叱られる、失敗する、待つことを強要されるといった体験を重ねると、「嫌いなもの」が増え、症状がこじれていく。投げやりになり、時には法に触れる行動に走ることもある。「好きなもの」を増やしていくのが大事な育て方で、「ご褒美」をうまく使いながら、待つ力を伸ばしていく。学校の協力も不可欠で「一人一人の違い」を教師が尊重すれば、周囲の子もADHDの子を排除しなくなる。

成人の場合は、告知と障害の説明によって「自己評価を高めること」がポイントで、繰り返すミスを防止する方法を一緒に考えたり、うまく行動できたときの「ご褒美」を本人と考えるなどの支援が有効という。

**成人期のADHDチェックリスト (パートA)**

	全くない	めったにない	時々	頻繁	非常に頻繁
1 物事を行うにあたって、難所は乗り越えたのに、詰めが甘くて仕上げるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありますか。					
2 計画性を要する作業を行なう際に、作業を順序だてるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありますか。					
3 約束や、しなければならない用事を忘れたことが、どのくらいの頻度でありますか。					
4 じっくりと考える必要のある課題に取り掛かるのを避けたり、遅らせたりすることが、どのくらいの頻度でありますか。					
5 長時間座っていなければならない時に、手足をそわそわと動かしたり、もぞもぞしたりすることが、どのくらいの頻度でありますか。					
6 まるで何かに駆り立てられるかのように過度に活動的になったり、何かせずにはいられなくなることが、どのくらいの頻度でありますか。					

■ 部分のチェックが四つ以上あれば成人期のADHDに該当する可能性がある

「ADHDの人は、新しいことに取り組むのが得意で、発想が豊か。瞬発力や社交性もある。排除ではなく、得意なことを伸ばす方向で考えてほしい」と呼び掛ける。

ADHD 不注意と、多動・衝動性を特徴とする発達障害。学齢期の子どもの3～7%に起きると推定されている。成人のデータはまだ乏しいが、何らかの「生きにくさ」を感じてADHDを疑い、精神科などを受診する人も増えてきた。診断の冒頭に、

チェックリストが使われることが多い。別表の6項目（パートA）の中で、4つ以上に当てはまれば、パートBと呼ばれるさらに詳しいチェックリストで調べ、他の疾患と鑑別していく。

### 認知症の不明者発見へ コンビニと協定の方針 大阪府



NHK ニュース 2015年9月16日  
認知症で、はいかいし行方不明になる人の数が全国で最も多い大阪府は、お年寄りの早期発見につなげるため、大手コンビニエンスストア4社と協定を結ぶ方針を固めました。およそ3500の店舗が参加する見通しで、都道府県とコンビニチェーンとの協定では、全国最大規模になる見込みです。

大阪府内で認知症やその疑いがあり、はいかいして行方不明になったとして去年、警察に届けられた人は、全国で最も多い1921人で、中には死亡した人もい

ることから早期発見が課題となっています。

このため大阪府は、大手コンビニエンスストア4社と協定を結び、お年寄りの早期発見や保護に協力を求める方針を固めました。

府によりますと、協定を結ぶのは、「サークルKサンクス」と「セブン-イレブン・ジャパン」、「ファミリーマート」、それに「ローソン」の大手4社です。府内に4社合わせておよそ3500ある店舗が参加する見通しで、都道府県とコンビニチェーンとの協定では、全国最大規模になる見込みです。

各店舗には、自治体から行方不明者の服装や年齢などの情報が伝えられ、該当するお年寄りが来た場合、店員が警察や家族などに連絡するというのです。

府によりますと、特に、夜間や早朝にお年寄りを見つけるのが難しいということで、24時間営業しているコンビニの協力を得ることで早期発見につながると期待されています。

### 診療記録丸見え…カルテ軽トラ1台分廃棄される 読売新聞 2015年9月16日

個人情報の書かれたカルテ（診療録）が、静岡市清水区の民間の古紙回収所に廃棄されていたことが15日、静岡市保健所への取材で分かった。

保健所は「保存期間が終了したカルテは、個人情報保護法の観点などから、溶解などで処分するのが適当」として、今後の対応を検討している。

保健所によると、14日午後4時頃、カルテが捨てられているという情報が寄せられ、職員らが現場を確認。カルテを回収した。

カルテはひもで結んだものや、段ボールに入れられたものがあった。廃業した病院のカルテとみられ、患者の名前や診療日時、診療の記録が誰でも見える状態だった。軽トラック1台分弱の量があったという。

カルテは医師法で、診療の完了時から5年間、医療機関で保存することが定められている。

### 共働き世帯の就労支援 千葉県内の病児保育施設利用伸びる 産経新聞 2015年9月16日

病児保育施設を千葉県内で運営し、訪問型の病児保育サービスなども展開するマザープラネット（同県柏市）。平成23年の設立で、24年に保育施設をオープンしてから、利用者数は延べ500人以上と順調に伸びている。

情報管理会社に勤めていた藪本敦弘社長（38）は7年ほど前、当時1歳の長女の体調が良くないときは、夫婦共働きのため、大阪府枚方市で病児保育を利用していた。22年に千葉県流山市に転居したが、病児保育施設がなかった。周辺の人からも「困っている」との声を聞き、「それならば自らつくってしまおう」と起業した。

現在は同市と柏市の2カ所に病児保育施設で認可外保育園の「オハナ☆キッズケア」を運営。かぜや風疹などの症状がある子供を預かっている。利用には有料の会員登録と医師の病児保育の利用許可が必要だ。

藪本社長は「子供を持つ世代の就労の多様性につなげたい。そのための受け皿をたくさんつくりたい」と話す。

30代の利用者が多く、受け入れる子供は1～2歳が大半という。30代の子育て中の女性からは「出産後の再就職の際、面接で『病児保育の会員になっている』と言うと、採用されやすくなった」といった声が寄せられたという。このほか、在宅ワークの支援事業を行ったり、地元NPO法人と共同で子育て情報誌を発行したりしている。

課題は、利用料がある程度かかるため、母子家庭の母親からの「使いたいのが、気軽に利用できない」という要望に答えていくことだ。今後は茨城県や埼玉県、東京都内にも施設を拡大し、低所得の人でも利用できるような枠組みをつくりたいと意気込む。他県で同様の施設を開園したい人たちの支援も行う方針だ。

## いじめや体罰対応で遺族の声反映を 兵庫の民間団体、文科省に要望書

神戸新聞 2015年9月16日

民間団体「全国学校事故・事件を語る会」が16日、文部科学省などに対し、いじめや体罰、部活動中の事故への対応に関する要望書を提出する。同省の有識者会議が本年度中にまとめる事後対応の指針に、被害者や遺族の視点を盛り込むよう求める。同会は「徹底した事実解明と、専門知識を持ったコーディネーターによる現場対応が必要」と指摘する。

(上田勇紀)

閉廷後、川西市の県立高校2年時に自殺した長男への思いを語る両親＝8月28日、神戸市中央区、神戸地裁前（撮影・長谷部崇）

「遺族の気持ちに寄り添うことなく、保身最優先だ」

8月末、神戸地裁。法廷で父（63）が当時の校長に言い放った。

川西市の兵庫県立高校2年の男子生徒＝当時（17）＝が2012年9月、始業式前日に自殺。その後、同級生3人から「ムシ」と呼ばれるなどのいじめを受けていたことが判明した。両親が校長や同級生、県などを相手取り、損害賠償を求めた裁判で的一幕だった。

両親は校長らとやり取りを重ねるうち、不信感が募った。「不慮の事故」として生徒に公表しようとしたことや「遺族は理解してくれない」という教員の発言で、「いじめを隠ぺいしようとしている」と考えるように。

同会代表世話人の内海千春さん（56）＝たつの市＝は「事故や事件の被害者が常に体験してきたこと」と話す。遺族らが突然の出来事に戸惑う中、学校側は「子どもへの二次被害を防ぐ」「学校は犯人捜しをするところでない」などの理由で徹底的な調査をせず、沈黙化を図ろうとするという。

元中学教諭の内海さんは「もはやシステムエラー」と表現。事故などが起こると、学校側にとって事実調査は自らの責任を明らかにすることになり、賠償責任も生じる。「訓練も受けていない教員が、きちんと被害者に対応しながら事実解明することは不可能に近い」。その結果、当事者や遺族が深く傷つく。

文科省には、国や県が事後の現場対応を専門とする機関や組織（コーディネーター）を設けるよう要望。内海さんは「航空事故などと同じように、専門知識を持った機関が原因を調査し、被害者にも対応する。その上で真実を明らかにすることが、二度と事故や事件を起こさないことにつながる」と強調する。

◆全国学校事故・事件を語る会 部活動中の事故やいじめ、体罰、教師の指導後の自殺などで子どもを亡くした遺族らによる全国組織。2003年、兵庫県内の遺族や弁護士らが設立し、神戸を拠点に定期集會を開く。



## 大阪市が校舎修繕前倒し、子ども議員の訴え届く

読売新聞 2015年9月16日

中学生の訴えで、大阪市が3億5000万円をかけて小中学校校舎の修繕を前倒しすることになった。8月に開かれた「おおさか 子ども市会」で、議員役の生徒から「古くなった設備を直して」と切実な声が上がったため、補修費の補正予算案を25日開会の市議会に提出する。

市教育委員会によると、今年度は市内の小中学校計424校のほぼ全てから約1500件の修繕・補修要望が寄せられた。ただ、財政難もあり、当初予算で手当てできたのは約800件。腐食したトイレの仕切りやたわんだ床板の交換など、軽微な約700件は次年

度以降に持ち越された。

ところが、子ども市会で男子生徒が「使えないトイレや、階段が一つしかなくて不便な校舎がある。もっと税金を学校に使って」と要望。橋下徹市長が「迷惑をかけて申し訳ない。9月議会に予算を上げたい」と答弁、一転して補修が決まった。市教委によると、今回の補正予算で、積み残された約700件全てに対応できる見通しという。

### 【維新分裂】「おもしろきこともなき世を…」橋下氏、高杉晋作の句を引用。そのココロは？

産経新聞 2015年9月15日

15日夕に大阪市内のホテルで開かれた地域政党「大阪維新の会」の政治資金パーティー。代表の橋下徹大阪市長は非公開のあいさつで、高杉晋作の辞世の句といわれる「おもしろきこともなき世をおもしろく」を紹介し、「僕はぜひ皆さんともう一度、大阪の時代を面白くしていきたいと思っている」と出席した支持者らに呼びかけた。

長州藩（山口県）出身の幕末の志士である高杉は、明治維新を前に若くして結核で亡くなっている。安倍晋三首相は今年6日放送のテレビ番組で、一部週刊誌による自身の吐血報道を否定する際に、右手を口元に当ててせき払いをした後、手のひらを見せ「高杉晋作ではありませんから」と冗談を飛ばしていた。

橋下氏はパーティーでの非公開のあいさつの中で、高杉について「あの人が友達、同僚になっていたら一緒にやれるか。多分できない。やっぱりすごい」と称賛。高杉の辞世の句を紹介し、支持者らに「僕はぜひ、皆さんと一緒に大阪の時代を面白くしていきたい。最後は『ああ、俺たちの人生、私たちの人生面白かった』といえるような」と語りかけた。

### 演奏会のバリアフリーを目指して

大阪日日新聞 2015年9月16日

「身障者接遇講習会」の様子。お客様役は講師の山本美恵子さん（盲導犬はフェリシア）。今年の『夢コンサート』10月7日開催予定。すでに予約で満席だ（撮影：北嶋 優）



演奏会に行きたい…だけど、開演に間に合うかな、チケット代は高すぎないかな、何時までに帰ることができるかな、など、行くことを決心するまでには悩みがさまざまに立ちほだかる。しかしそれらの悩みに加えて、別のハードルも越えなければならない方々がいる。障がいのある方々だ。

いずみホールは2003年より毎年1回、障がい者と介助者を無料招待するオーケストラ・コンサート『夢コンサート』（藤岡幸夫指揮、関西フィルハーモニー管弦楽団）を開催してきた。大変好評で、募集人数700名に対し平均入場者数は650名、内訳は車椅子利用者と介助者が20組、盲導犬・補助犬と利用者が15組、視覚障がい者多数となっている。

ホールスタッフはこの演奏会に向けて毎年「身障者接遇講習会」を受講。ホールを使った実践訓練だ。講師は障がいのある方々とプロの介助者。視覚障がい者の階段での誘導、客席案内、お手洗いでのお手伝い、車椅子から客席への移乗など、何回受講しても緊張する。しかし演奏会のあとの熱い反響を考えると、わたしたちも力が入る。

障がい者の方々にふだんから気軽に演奏会に来ていただくためには、どのような工夫が必要だろうか。講習会のあとに伺ってみた。まずは視覚障がい者の先生方から。「出無精なのですが、今回のように案内して頂くと出かける気になります」（瀧谷達男さん）「初めていずみホールに来ましたが、また来たいと思います」（浜脇イサエさん）。きっかけは大切だ。

「バリアフリー映画会が好きでよく行っています。コンサートのときは、付き添いをお願いする方の分のチケット代も負担するのが悩みです」(酒井光子さん)「バリアフリー映画会以外にも天満天神繁昌亭、なんばグランド花月にも行きますね」(疋田いみ子さん)。バリアフリー映画会は人気である。情景についての音声説明が聞け、介助者割引がある映画館もあるようだ。

「いずみホールの接客は素晴らしいので、玄関からスタートするご案内を一步進め、終演後タクシーまで案内して下さったらより良いと思います。1人で来場できるようになる方もあるでしょう。2人分のチケット代は負担なので」(山本美恵子さん)「電車は駅員さんが乗せてくれるので、駅から会場までが問題なのです」(介助者の山中洋子さん)「それと、盲導犬を連れてくると端っここの席がいいだろうと案内されることがよくあります。中央部で音楽を聴きたい方もあるでしょう。可能なら席の希望も聞いていただければ」(山本さん)。盲導犬は演奏会中まったく静かにしている。周囲の理解を頂きつつ、いろいろと可能性を探りたい。

車椅子利用者の要望はどうだろうか。介助者2名にお伺いした。「去年から介助方法を少し変え、2人で介助できるときは1人が車椅子を押し、もう1人が先導するようにしています。そうしないと歩行者がさまざまな方向から車椅子の直前を横切り、危険です」(弘中邦治さん)。確かに歩きスマホも横行するご時世だ。終演後の人の流れは要注意である。「接客で、車椅子利用者よりも介助者に話しかける方が結構おられます。車椅子利用者にお話は無理、と最初からお考えのようです」(坂井義幸さん)。ズシリと響くものがあった。障がい者のご案内には技術も必要だが、先入観がバリアになっている。まずは心のバリアフリーからなのだ。(いずみホール 森岡めぐみ)

## <出来秋を前に>障害者の雇用を支援

河北新報 2015年9月16日



社員の指導を受けながら、青々と育ったミズナの収穫作業に取り組むスタッフ

◎MKアグリ(仙台市青葉区国分町)

東北随一の歓楽街、仙台市青葉区国分町に本社を置く農業生産法人「MKアグリ」は、居酒屋「こちらまる特漁業部」を多店舗展開するエムケーコーポレーション(仙台市)が昨年9月に設立した。泉区実沢のハウス施設を買い受けるなどし、異業種から農業分野に新規参入した。

「実沢ファーム」にあるビニールハウス2棟で水耕のミズナとレタス3種、土耕のトマトを栽培。葉物は自社店舗で提供するほか、大手ホテルチェーンの朝食用として供給している。専従の社員6人を指導役に、障害者の就労を支援する関連会社のMKアシスト(塩釜市)の利用者8人が苗の育成やパネルへの移植、包装作業などに当たる。「農福連携」による生産体制が大きな特徴だ。職業指導員の尾形健さん(42)は「水耕で育てられた野菜は土臭さがなく、すっきりした味わいでサラダなどに向いている。農作業を通じて障害者の自立も支援したい」と話す。

サトイモやキノコなどの農産物輸入も手掛けるエムケーコーポレーションが農業に乗り出すきっかけは、人件費の増加や円安による中国産野菜の価格高騰だった。取引がある中小の食品加工会社は、多くが原料の確保に四苦八苦している。

流通や販売の3次に強みを持つ同社が1次の生産に携わることで、雇用を含めた食材供給の循環を東北で再構築したいと願う。松原茂社長(56)は「既存の農業生産者と協力関係を築きながら、新たな農商工福の連携モデルをつくりたい」と意気込みを語る。

<メモ>1カ月の生産量はミズナが約250キロ、レタスは500~600キロに上る。トマトはカゴメに全量出荷。若林区の農地でサトイモの生産にも取り組み始めた。連絡先は 022

(215) 5551。

### がん新薬に副作用、重症筋無力症で患者死亡

読売新聞 2015年09月15日

免疫を活性化し、がん細胞への攻撃を促すタイプの新しいがん治療薬「オプジーボ」を投与された患者1人が重症筋無力症で死亡したとして、厚生労働省は15日、小野薬品工業（大阪府中央区）に対し、同症などを薬の添付文書の「重大な副作用」欄に追記し、関係者に注意を促すよう求める通知を出した。

重症筋無力症は、全身の筋力が低下し、呼吸困難に陥ることもある難病。同省などによると、悪性黒色腫での製造販売が承認された昨年7月から今年8月末までの間で、薬を投与された患者のうち6人が同症や筋炎を発症し、その中の80代女性が呼吸不全などを併発して死亡した。いずれも薬との因果関係が否定できないとされた。

大腸炎や重度の下痢も4人の発症が確認され、重大な副作用として添付文書への追記が求められた。

### 欧米で急増の耐性菌 国内も1400人近く感染

NHK ニュース 2015年9月16日



抗生物質のほとんどが効かないとして欧米の医療機関などで問題となっている「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌」に感染した患者が去年9月以降、国内で1400人近く報告されていたことが国立感染症研究所のまとめで分かりました。

「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌」は抗生物質がほとんど効かないため免疫が低下した入院患者などが感染すると治療が難しくなり死亡することもある

細菌です。

日本でも海外の医療機関を受診した患者を通じて持ち込まれるケースが増えている、国は去年9月、法律で患者全員を報告するよう義務付け、国立感染症研究所によりますと、今月6日までに報告された患者数は1364人に上っているということです。

患者は65歳以上の高齢者が中心で、国内の医療機関で感染したと見られるケースも多かったということです。

国立感染症研究所の柴山恵吾部長は「この多剤耐性菌は、欧米ではこの10年で急速に増えたとされるが、国内でも一定の規模で広がっている実態が初めて分かった。免疫力の低い高齢者は重症化するリスクも高いので、病院内での感染を早期に発見し対策を取れるようにする必要がある」と話しています。

### 両陛下、来月に大分県ご訪問

産経新聞 2015年9月16日

宮内庁は16日、天皇、皇后両陛下が社会福祉法人「太陽の家」の創立50周年記念式典臨席などのため、10月3日から1泊2日の日程で大分県を訪問されると発表した。太陽の家は、昭和39年の東京パラリンピック開催に尽力した医師の中村裕氏が創設。両陛下は皇太子同妃時代に東京パラリンピックの開会式に臨席し、その後も障害者スポーツの普及に心を寄せられている。式典の後は、来年のリオデジャネイロパラリンピック出場を目指す選手とも交流される。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行